



たまだれ
No.53

奉祝記念号

玉

垂

Tamadale

奉祝

天皇陛下御即位三十年



奉祝記念特集

ぎょせい みうた
御製・御歌で綴る30年

特別寄稿文

巻頭特集

皇室ジャーナリスト 高清水有子 / 平成の皇室取材を振り返って

平成30年 例祭の齋行 / 大神様に捧げる日々の感謝のこころ

小國神社の由来

創

始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武将など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元亀三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拜殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。

また、平成十五年九月十四日には、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下のご親拝を賜り、平成十八年十一月八日には、神宮祭主池田厚子様のご参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。



小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

小國神社ものがたり
ご祭神とともに

公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索

日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成をしたアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたてて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



清々しい初夏の風が吹き抜ける宮川（平成30年5月19日）

平成の大御代を寿ぎて

六月に入り、親しみ深い「平成」の元号を使うこともあと一年を切ることとなりました。

来年四月末には天皇陛下がご譲位され、翌五月一日には、皇太子殿下が即位される事が定められています。また本年、平成の御代は三十年目の佳節を迎え、来年、二月二十四日には政府主催の「天皇陛下御在位三十年記念式典」が行われることも発表されました。国民こぞつての奉祝の誠を捧げたく存じます。

これまでの平成の御代を思う時、スポーツ界ではオリンピックなどの活躍や、多くの科学者がノーベル賞を受賞し、多くの日本人が世界で活躍しました。経済においてはバブル崩壊やリーマンショックなどの混乱を経て、順調に回復へと向っています。一方で、深く心に刻まれているのは、先の東日本大震災など多発した自然災害ではないでしょうか。

そのような困難な状況においても、天皇陛下は、いち早く被災地にお出ましになられ被災者に寄り添い、すべての人々に心を寄せ続けてこられました。また、内外の激戦地へ赴き戦歿者に慰霊の祈りを捧げておられます。このような尊いお姿を拝し、私たちは勇気づけられ、また諸外国の人々にも深い感動を与えられました。

さらに、数々の宮中祭祀の御奉仕者として国民の安寧と平和を祈る重き務めを「全身全霊」で果されてきた陛下を仰ぎ、このような大御心が皇祖より途切れることなく受け継がれてきたことに感謝と敬仰の念を抱くばかりです。

我が国は、一三〇〇年以上前から「元号」という時間感覚を持ち続け、天皇を中心とする伝統と誇るべき文化を育んできました。私たちは、時代区分や国の重大事件はもちろんのこと、個人の生活や人生も「元号」によってイメージすることが多々あります。例えば、「明治維新の立役者」とか、「昭和の重大ニュース」と言った使い方や、「昭和生まれ」という言葉も使います。最近では、「平成生まれ」という言葉も頻繁に使われ始めています。これは、私たちが天皇陛下の御在位と結びついた他国にはない独自の時間軸を持っていることに他なりません。このような美しい日本文化でもある「元号」について利便性や興味本位の議論は慎むべきです。元号は皇位の継承があった時に限り改めるものです。

聖寿の万歳と皇室の弥栄を寿ぎ奉り、国の隆昌と世界の平和、そして氏子崇敬者のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

平成三十年六月十五日

大前に額づき捧げる“祈り”



例祭

大神様のもとに集い

日々の感謝を伝え
ともに喜びをわかちあう

例祭・神幸祭

●例祭とは

神社にとって最も重要な祭祀で、通常は年に一度執り行います。それぞれの神社やご祭神にとって特別に由緒あるお祭りで、俗に例大祭とも称されます。当社では、ご祭神大己貴命（おおなむちのみこと）が本宮山に鎮まったとされる吉日です。

●神幸祭とは

神霊が宿ったご神体や依り代などを神輿に移して、渡御します。ご祭神がお出ましになることで神威を広く行き渡らせるとともに、神と人とが親しく交歓する機会となる大切なお祭りです。



例祭の斎行

今年の例祭期間は四月十二日(木)末社塩井神社の垢離祭（神職・舞楽人が身を清める塩水を汲むお祭り）の斎行に始まり、十四日(土)午後二時から国指定無形民俗文化財でもある古式十二段舞楽を大前に奉奏しました。

翌日、十五日(日)十一時から古式十二段舞楽を奉奏し、午後二時からの神幸祭では、神輿渡御が行われ大宝元年（七〇一）の勅使参向の時代絵巻を再現した勅使行列が参道を華やかに飾りました。今年の勅使役には森町長太田康雄様にご奉仕いただきました。

十七日(火)には前日祭を斎行、無事に十八日(水)を迎え、例祭を執り行いました。

氏子崇敬者の皆様におかれましては、常日頃変わることのない祭事、行事へのご奉仕に對しまして心より感謝を申し上げますとともに、益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



舞楽

大神様へ捧げる”誠の心“
一三〇〇年続く幽玄の伝統

特殊神事芸能 小國神社古式十二段舞楽

古式十二段舞楽は、小國大神様への誠心をもって奉納することを本義とし、本年は、4月14日(土)・15日(日)奉奏いたしました。

大宝元年(701年)春18日都から勅使(天皇の使者)が都から出向き、現在の社地に里宮を開き、十二段の舞を奉納したことが舞楽の始まりと伝承されています。

また、舞楽は、東洋に発達した古代芸術の代表的なもので、『東洋文化の精』とも言われています。その文化的価値や伝承活動が認められ、昭和57年1月23日文化庁より「重要無形民俗文化財」に指定され現在に至ります。



太平楽



稚児舞



古式十二段舞楽奉仕者御芳名

(敬称略)

師匠見習	稚児	太平楽	色香	安摩	二の舞	陵王	納利	獅子	師匠見習	副指南役	指南役
高内大北天大白	鶴島野智富	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	高内大北天大白	鶴島野智富	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	高内大北天大白	鶴島野智富
高内大北天大白	鶴島野智富	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	高内大北天大白	鶴島野智富	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	高内大北天大白	鶴島野智富
高内大北天大白	鶴島野智富	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	高内大北天大白	鶴島野智富	内藤場明詞恵加	大島見木藤明詞恵加	高内大北天大白	鶴島野智富



◀ 獅子が頭を噛むことで
邪気を祓うと伝わります
▶ 垢離祭には舞楽奉仕者が
参列します



▲ 各地区よりご奉仕の神輿役の皆様 ▲

例 祭 点 描

末社塩井神社の垢離祭から始まる様々な祭典風景をご紹介します



▲ 舞楽人とのふれあいの一コマ ▲



▲ 勅使役 森長町 太田康雄様(中央) ▲



▲ 舞楽奉仕者表彰式の様子

森町指定無形民俗文化財 巫女舞

当社の巫女舞（御神楽）は、天正18年（1590）の「遠州小國一宮天宮神領之事」が初見で、400余年の伝統を誇ります。

現在、指南役の原田多加資様が伝統文化の継承に尽力されています。



指南役 原田多加資
奉仕者 鈴木心乃
天野来美
村松実乃
妹尾莉音

巫女舞奉仕者御芳名(敬称略)

清浄な灯りをご神前に

大前を照らす御神燈献燈

清浄な灯りをご神前に

本年の例祭におきましても多くの氏子崇敬者の皆様より、御神燈と雪洞を献燈いただきました。灯りには元来「火」がつきもので「火」は清め祓いに用いる清浄なものです。また私たちの祖先は「火」そのものが諸霊を呼び、それらが依り付くとも考えてきました。大前に灯りをお供えすることは照明としての意味と、ご神域を清浄に整える二つの意味があります。

御芳名

(敬称略・順不同)

- (株)大島寅次郎商店 福島県 森 町
- (株)三永 森 町
- (株)長谷川製作所 埼玉県 埼玉 町
- (株)豊田合成(株) 森 町
- セコム(株)磐田支社 磐田市 磐田 町
- (有)浦野モーターズ 森 町
- (株)さのや会館 袋井市 袋井 町
- (株)小倉商店 森 町
- (株)京都奉製(株) 京都府 京都 町
- (株)丸井紙店 山梨県 山梨 町
- (有)破魔矢奉製所 神奈川県 神奈川 町
- (有)デザインオフィス エムエスシー 袋井市 袋井 町
- (株)三愛工芸 茨城県 茨城 町
- (株)松鶴 袋井市 袋井 町
- みどり写真館 森 町
- 春日屋青果店 袋井市 袋井 町
- リリーフ(株) 森 町
- (株)村上社寺工芸社 兵庫県 兵庫 町
- 榛葉工芸 島田市 島田 町
- 倉見建設(株) 森 町

神賑わいの灯り雪洞献燈

御芳名

(敬称略・順不同)

- 小國ことまち横丁 (株)鈴木長十商店
- 小國ことまち横丁
- (株)ネクススコ。ポレーション
- ことまち夢小径
- かんなび
- (株)久米吉
- (有)太田茶店
- 保食や
- 青木恒産
- 胡祉斎
- 友誠
- マルミ塗装
- 木創工房 森童
- 清水商店
- 遠州みもろ焼
- 神宏クリーンサービス(株)
- 真田の森
- cafe もりまち
- (株)デイトナ
- (株)大塚彫刻工芸
- 高木建築
- 森のどうぶつ病院
- 吹きガラス工房
- フロレスタファブリカ
- (有)萩原造園
- (有)タカギ商会
- 鈴伍酒店
- ヘアーサロンタカギ
- 森のびようしつ
- (有)多米建設
- フナギテッケン(株)
- 三木の里カントリークラブ
- 一ノ宮郵便局
- 松田歯科医院
- 入鹿ハム
- (有)アマノ
- (株)ジェイエイ遠中サービス
- (有)今泉土木
- (有)大井製作所
- 加藤修・孝尚事務所
- ユージン(株)
- (株)アコルトパッケージ
- カルト(株)
- (有)オーキッド
- 乗松刃物
- こっこ屋
- 楽酒処 駿
- 工房HAL
- 亀山銀男
- (有)共栄土建
- (株)日本温装工業
- (株)袴田製作所 森町工場
- (有)エムケイデンキ
- 百々や
- (株)ハマネツ森工場
- 中井商事(株) 森工場
- (有)アカネ造園土木
- 日本工機(株)
- 創作陶芸工房アートファーム
- 大同DMソリューション(株)
- 暁雲窯
- (株)ザ・フォレスト
- カントリークラブ
- 鈴木土建(株)
- メイクアップ(株)
- (株)菓匠 あさおか

- ビューティーサロン タカヤナギ
- 高柳米穀店
- 旭自動車
- (有)遠州ボデー
- カットハウスオオタ
- 野口園
- さくら水道
- 鈴木三千雄
- (有)富士鉄工
- 大寶建設
- 松ヶ谷診療所
- (有)渡辺防水工事
- (有)すずき工業
- 遠州森鈴木農園(株)
- (有)ヤマニシ建築
- あさひな(株)
- (株)伸孝
- (株)ダイゴ
- (有)朝比奈造園
- (株)鈴木建築
- (有)西尾工務店
- 遠州中央農協 園田支店
- 長岡香料(株) 静岡工場
- サンフード機販(株) 静岡工場
- ヤマハ発動機(株) 森町工場
- (有)北島電機工業
- (有)守屋モーター
- (有)ムラマツ住建
- (株)関東甲信クボタ
- 遠州森営業所
- 山本フミコ美容室
- 美容室たけしの店
- (株)太雄工業
- 西村医院
- ぴあたウン シャトー中川
- 金山化成(株) シズオカ工場
- ヤスマ(株)静岡工場
- (株)山本環境整備
- かねとよ(株)

- (株)ツカモト
- (有)栄産業
- 杉本金属工業(株)
- 田中屋酒店
- (有)金原石油
- (株)家本工務店
- 建機工業(株)
- 鈴木美容室
- 三幸産業(株)
- なかね美容室
- (有)インテリア村松
- 東京理容
- (株)やまひろ 関東工場
- サイクルショップ パストラーレ
- 豊一商店
- 森町茶商組合 (有)石田茶店
- 森町茶商組合
- (有)鈴木次郎商店
- 森町茶商組合 (株)島商店
- 森町茶商組合 松浦製茶(株)
- 森町茶商組合 栗田商店
- 長谷川建具店
- 台日レストラン
- (株)八幡屋茶舗
- (有)政和電気
- ・兼題「明治維新一五〇年」
- 小池まさ子 川嶋 ひで
- 加藤あや子 牧野百里子
- 宮本 幸子
- ・兼題「森」
- 川嶋 ひで 田中貞三郎
- 加藤あや子 牧野百里子
- 河野 久子 高木 弘年
- 宮本 幸子

献詠ご芳名(敬称略・順不同)



平成の皇室取材を振り返って

皇室ジャーナリスト
皇室報道キャスター 高清水有子

”すべての人々に幸多かれと祈られた三十年間“

天皇皇后両陛下と国民との交流の場面を、私は平成の幕開け直後から、同行取材や周囲の方々の取材を通じて数多く関わって参りました。この機会に平成の御代を振り返り、印象深い幾つかの出来事をご披露いたします。

まずは平成三年、雲仙普賢岳噴火に伴うお見舞いです。天皇皇后両陛下は長崎県日帰りの過密スケジュールで訪問されました。この時が平成の両陛下のお見舞いスタイルの原点です。私はその現場で衝撃的なシーンに直面しました。避難所の体育館で天皇陛下は、ワイシャツの袖を腕まくりされ、避難している人々に膝をついてお声掛けなさいました。この様子には只々驚きました。このようなシーンを今まで見た事も聞いた事ありません。想像もできなかつた光景だったからです。

奥尻島でも大きな津波の被害があり、尊い命が失われました。被災直後は、島民の皆さんは呆然として、何をしたいかわからないような、生きる望みを失ったような目をされていました。しかし、その島民の皆さんが、ある事を境に変わりました。

天皇皇后両陛下がお見舞いにいらっしゃるといふニュースが流れると、呆然としていた島民の皆さんは各々体育

館に集まりました。その体育館には、全国から支援物資が届いていたのです。その中から両陛下をお迎えするための洋服を選び始めたのです。当日、両陛下がおいでになり、お声かけをなさいました。今は美しい奥尻島に戻りましたが、島の皆さんに何うと自分たちの復興のスタートは「天皇皇后両陛下がわざわざ、この奥尻島まで来てくださった時」と、迷わずに言います。

東日本大震災から七年という歳月が流れました。今もまだ、大切な家族を探している方、大切な人が帰って来ない、という方が大勢います。復興には、本当に時間がかかります。

東日本大震災の後、私は津波で流されてしまった神社の鎮守の森を復活させる事を目的とした神社本庁主催の植樹祭でスタッフ兼司会者として参加し、十数カ所をまわりました。宮城県でも福島県でも、朝早くから氏子のおばあちゃんたちが集まってきます。話をしていると、おばあちゃんたちは「自分は生き残ってしまった。自分のこの命を、亡くなった若い子、子供たちにやりたい」と言っていて泣くのです。私は、どのように声をかけて良いかわからず頷く事しかできませんでした。

両陛下が被災地においてになって、

そういう方々に、どのように接せられるのかと拝見すると、皇后陛下はこうおっしゃるのです。

「生きていて下さって、ありがとうございます」
まるで家族のようなひと言です。皇后陛下にお声をかけられたおばあちゃん、表情がみるみる変わっていきます。「せっかく生かされたこの命だから、よし、自分にも何か役目があるのだ」。そういうふうにも思い直して表情が明るくなるのです。

このような場面を目の当たりにする度に、「皇室があつて良かった。一人ではないのだ。家族のような国なのだ。本当にありがたい。この国に生まれて良かった」と実感します。

平成も残すところあと僅かとなりましたが、被災地で天皇皇后両陛下が国民の前で膝をつかれるのが、当たり前のようにとらえている国民も出てきています。これは、とても危険な事だと思えます。

雲の上の方が自らの御意思で私たちのところまで降りて来てお声掛けをして下さっているのです。第一二四代昭和天皇までは膝をお付きになるのは祭祀の際、神様の御前のみです。つまり平成の御代のスベシヤルな事で、当たり前ではない恐れ多く有難い事なのです。

平成生まれの子供たちが、両陛下が膝をおつきになって国民を励まされる事が当たり前の姿だと思つて育つたら、どうなるのでしょうか。これは「諸刃の剣」ではないかと思ひます。皇室の権威が下がっていくリスクを感じます。これは当たり前前事ではなく畏れ多い事と感じるのは、私たちが昭和の時代を知っているからなのです。これから生まれてくる平成の次の世代の子供たちに対して、ちゃんとわかっている大人が、この事をしっかりと伝えなくてはいけないと思ひます。

戦後、核家族化が進み、おじいちゃん、おばあちゃんから、孫がいろいろな面白い話を聞く機会が減りました。その上、両親が共稼ぎの家庭が増え、学校から帰宅しても誰も人が居ないので家族同士の会話も減りました。家庭の中で、会話を持つ事が、教科書よりも大切で一番そこが要だと思ひています。話して教えれば、絶対伝わると実感した事があります。

新潟県中越地震が発生した二週間後に、両陛下が避難所の体育館にお越しになる取材をした時の事です。

避難所で二週間という疲れ果てている状況です。被災した若い世代の皆

さんは、皇室について考える機会も無かったはず。戦後教育を受けた親からも、学校教育の中でも皇室を学ぶ機会がほとんど無いからです。両陛下がまもなくご到着というのに、寝転がって「うざい、だるーい」と言いながら小型ゲームをしている中学生の女の子がいました。避難所の外から歓声が聞こえたので「両陛下がいらいらする。あの子、どうしているかしら」と取材の七つ道具である双眼鏡で確認しました。女の子は両親の隣に座っていたので少しホツとしました。

そのうちに両陛下がお越しになり、体育館で寝転がっていた女の子の目の前に。すると予想外の出来事が起こりました。その女の子は皇后陛下を目の当たりにして、目に一杯涙をためていたのです。私は驚きと同時に、あの涙が何なのかを、すぐにでも聞きたい衝動に駆られました。

両陛下が会場をお立ちになった後に、その子に「さっきの涙は何ですか」と聞くと「なんだかわからないけど、涙が出てきました」とその子は答えました。

私はその時、日本は捨てたものではないと確信しました。親からも学校からも、誰からも皇室のことを教わらな

くても、先祖から受け継いできた日本人の遺伝子を持つている証です。その世代が今、自ら御朱印帳を持って神社仏閣を巡っています。この御朱印ブームは、いにしえより続いている皇室と神社の繋がりを彼らに伝える大きなチャンスです。

ここで平成の皇室の特徴のひとつ「慰霊の旅」をご紹介します。激動の昭和から平成となり、天皇皇后両陛下は節目の機会には先の大戦の戦死者を慰霊されています。私にとって特に印象深いのは戦後六十年、同行取材をしたサイパンご訪問、そして戦後七十

年のパラオご訪問です。サイパンは両陛下が自ら望まれて実現した初めての公式な外国訪問です。通常は相手国からご招待があり閣議を経て晴れて、海外への訪問が決定します。その意味で両陛下の深い思いが感じられます。実は当時、サイパンと共にパラオも訪問先として案が挙がっていました。私は

既にパラオ案は立ち消えになったと思ひていました。ところが、十年の歳月をかけて両陛下が着々と準備されていらしたので。その結果、パラオへの慰霊の旅が実現しました。パラオの

慰霊の旅が実現しました。パラオの

慰霊の旅が実現しました。パラオの

ペリリユー州では「日本の天皇陛下が訪問した日」四月九日は祝日となっています。両陛下は国内外の激戦地に足を運ばれ、長い長い拝礼をされます。慰霊の総括として是非、ご在位中にご英霊がお祀りされている靖国神社で、天皇陛下のご親拝が叶いますように。この度、平成の皇室を振り返り、将来に向けた大事なことを再確認する、寄稿の機会を賜りました。心より深く感謝申し上げます。

現在は皇室評論家として、皇室特番のアドバイザー、コメンテーター、皇室関連の執筆、講演講師の活動をするとともに、歴代天皇の詔勅研究に参加し研究員として携わる。

- ・「生き物文化誌学会」会員
(秋篠宮殿下発起人)
- ・「一般財団法人 日本文化興隆財団」
評議員

【著書】

- 『紀子さまの育児日記』 (朝日出版社)
- 『秋篠宮さまと紀子さまの愛の十二章』 (学習研究社)
- 『悠仁さまへ』 (学習研究社)



プロフィール

皇室ジャーナリスト
皇室報道キャスター
高清水有子

平成元年より秋篠宮家を中心に情報番組で皇室取材を担当。
元「日本テレビ皇室プロジェクト」メンバー。
秋篠宮両殿下からの信頼も厚く、官家の出入りが許されているマスコミ人として有名である。

“国民とともに歩まれた天皇陛下

平成の御代への愛惜は尽きず“

”御製”・”御歌” “で綴る三十年”

平成二年から平成三十年にかけて
天皇皇后両陛下がお詠みになられた和歌

御製・御歌とは

平成三十一年に、天皇陛下は御即位三〇年を迎えられます。

天皇陛下は皇后陛下とともに常に国民に心を寄せられてこられました。地震や集中豪雨などの自然災害が発生した際には被災地をご訪問され、被災者を励まされています。

また、天皇陛下は宮中における祭祀の伝統を受け継がれ、常に国民と国家そして、世界の平和を祈ってこられました。更には、外国との友好親善にもお心を砕かれ、御即位後にご訪問された国は二十八ヶ国にのぼります。

天皇皇后両陛下は、お祝い事や地方行幸啓など、折にふれ歌を詠まれています。天皇陛下の詠まれた歌を『御製』、皇后陛下の詠まれた歌を『御歌』と申し上げ、その多くから天皇皇后両陛下のお姿を拝察することができます。

天皇陛下御製 平成二年

『大嘗祭』

父君のにひなめまつりしのびつつ
我がおほにえのまつり行なふ

天皇陛下は常に「祭り」を通して国の平和と五穀豊穡、国民の安寧をお祈りされています。宮中では多くの祭祀が行われていますが、天皇陛下が祈りを捧げられる場所は皇居の中にある宮中三殿です。

宮中三殿は、天照大御神をおまつりする「賢所」(かしこどころ)・歴代天皇・皇族の御霊(みたま)をおまつりする「皇霊殿」(こうれいでん)・天つ神と国つ神、すべての神々をおまつりする「神殿」(しんでん)の総称です。

※にひなめまつり||新嘗祭
十一月二十三日に、天皇陛下御自らが皇居内で、その年に収穫したお米などを天照大神にお供えし、収穫を感謝する祭り。

※おほにえのまつり||大嘗祭
天皇陛下が御即位後に初めて行う新嘗祭で、皇位継承儀礼として行われる一世一度の大祭。

天皇陛下御製 平成七年

『阪神・淡路大震災』

なるをのがれ戸外に過す人々に
雨降るさまを見るは悲しき

負傷者は四一、五〇〇人を超え、未曾有の大震災となりました。天皇皇后両陛下は、地震発生から約二週間後、いまだ余震の続く一月三十一日に被災地をご訪問されました。

天皇陛下御製 平成十七年

『サイパン島訪問』二首

サイパンに戦ひし人その様を
浜辺に伏して我らに語りき

あまたなる命の失せし崖の下
海深くして青く澄みたり

天皇皇后両陛下は、平成十七年六月、戦後六十年にあたり、アメリカ自治領のサイパン島をご訪問され、戦争で亡くなった人々を慰霊し、平和を祈られました。サイパン島では、帰還兵から当時の様子をお聴きになり、慰霊碑

に献花をされました。また、サイパン陥落に際して日本の軍人や在留邦人が身を投じたブントアン・サバナタ(バンザイ・クリフ)などの断崖をお訪ねになり、黙禱を捧げられました。

ご訪問に先立ち天皇陛下は「先の大戦によって命を失ったすべての人々を追悼し、遺族の歩んできた苦難の道をしのび、世界の平和を祈りたい」とのお言葉を述べられました。

天皇陛下御製 平成二十年

『日本ブラジル交流年・日本人ブラジル移住百周年にちなみ
群馬県を訪問』

父祖の国に働くブラジルの
人々の幸を願ひて群馬県訪ふ

日本ブラジル交流年・日本人ブラジル移住百周年に当たる平成二十年四月、両陛下は多くの日系ブラジル人が働く群馬県の太田市と大泉町をご訪問されました。

この御製には、かつてブラジルに渡った日本からの移住者が、ブラジルの人々によってその土地に受け入れられたように、いま日本で

働く日系ブラジルの人々が、幸せに暮らしているようにという気持ちを込めてお詠みになりました。

天皇陛下御製 平成二十三年

『東日本大震災の
被害者を見舞ひて』

大いなるまがのいたみに耐えて
生くる人の言葉に心打たるる

平成二十三年三月十一日に東日本大震災が発生し、死者は一五、八九四人、行方不明者は二、五四十六人を超える未曾有の大震災となりました。

天皇皇后両陛下は、いまだ余震の続く同年四月十四日より被災地や全国各地に設けられた避難所をご訪問されました。

両陛下は、高齢者、障害者、そして被災者などの苦しい立場にある人々のことを常にお心にかけて、また喜びや悲しみを国民と共有しようとお心を砕かれておられます。

天皇陛下御製 平成二十四年

『仙台市仮設住宅を見舞う』

禍受けて仮設住居に住む人の
冬の厳しさいかにとぞ思ふ

天皇皇后両陛下は、昨年に引続き、本年も宮城県仙台市の被災地をご訪問になり、被災者を見舞われ、支援者を労われました。

この御製は、仮設住宅において寒さの厳しい冬を過す人々にお心を寄せられてお詠みになられたものです。

皇后陛下御歌 平成二十四年

『復興』

今ひとたび立ちあがりゆく村むらよ
失せたるものの面影の上に

この御歌は、地震と津波により失われた、人命、家、周囲の自然など、その全ての面影を心に抱きつつ、今一度復興に向け立ち上がろうとしている人々にお思いを寄せてお詠みになりました。

皇后陛下御歌 平成二十七年

『ペリリュー島訪問』

逝きし人の御霊かと思つむ
パラオなる海上を飛ぶ白きアジサシ

天皇皇后両陛下は、本年四月、慰霊のためパラオ共和国をご訪問になられました。お泊まりになつた海上保安庁の船、「あきつし

ま」からヘリコプターで西太平洋戦没者の碑があるペリリュー島に向われる途中、眼下にサイパン島でご覧になったのと同じ白いアジサシが飛ぶ様子を無くなつた人々の御霊に接するようだとお感じになりつつ見入られたことをお詠みになりました。

天皇陛下御製 平成二十八年

『平成二十八年熊本地震被災者
を見舞ひて』

幼子の静かに持ち来し折り紙の
ゆりの花手に避難所を出づ

天皇皇后両陛下は、本年五月、前月の地震で大きな被害を受けた熊本県をお見舞いになりました。この御製は、避難所となっている益城中央小学校の体育館をお見舞いになった折、小学生の女児から色紙でつくつた百合の花束を受け取られたときのことを詠まれたものです。

天皇陛下御製 平成二十九年

『ベトナム国訪問』

戦の日々人らはいかに過ごせしか
思いつつ訪ふベトナムの国

天皇皇后両陛下は、本年二月から三月にかけて、ベトナム国を初めてご訪問になりました。この御製は、様々な戦争や紛争を経験し、その後に発展を遂げてきたベトナム国の来し方に思いを馳せられてお詠みになりました。

皇后陛下御歌 平成三十年

『語』

語るなく重きを負ひし君が肩に
早春の日差し静かにそそぐ

天皇陛下は、長い年月、ひたすら象徴としてあるべき姿を求めて生まれ、そのご重責の多くを語られることなく、静かに果たしていらつしました。この御歌は、そのような陛下のこれまでの歩みをお思いになりつつ、早春の穏やかな日差しの中にいらつしやる陛下をお見上げになつた折のことをお詠みになつたものです。

(宮内庁HPより抜粋)

新職員のご紹介

神明奉仕

「明き清き誠の心」

権禰宜 梶村京佑

巫女 芝田 碧



本年、四月一日より権禰宜に任ぜられました梶村京佑と申します。大学時代は国史学を専攻していました。長い歴史と伝統を有する小國神社にご奉仕が叶いましたことは、大変光栄なことであり、とても嬉しく思います。
一日でも早く儀典や社務を覚え、参拝者の皆さまが清々しくお参りしていただけるよう全力で取り組んでゆきたいと思えます。
今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



昨年、九月より巫女に任ぜられました芝田碧と申します。地元森町においても多くの皆さまに愛されている小國神社でご奉仕できることをとても嬉しく思います。
祭祀舞やお作法など不慣れなことも多く、まだまだ勉強中ですが、参拝者の皆さまを丁寧にお迎えし、気持ち良くお参りしていただけるよう精一杯頑張ります。
今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

授与品のご案内

国家安泰・福德円満・良縁成就

「縁起物」って？

吉 事の到来を祝い祈る神さまのご加護が宿る尊きもの

お正月の門松を始め熊手・破魔矢・鐺矢・干支彫り物だるま・七五三の千歳飴なども縁起物です。

「大國だるま」のご案内

優 美しい笑顔のだいこく様
色鮮やかに幸せを運ぶ

小國神社の大國だるまは、国家安泰・福德円満・良縁成就の縁起物として授与しております。

最近では、その色鮮やかで繊細なだるま職人の意匠が、和洋問わず様々なインテリアや住環境にも馴染むことから、全国各地より多くの皆さまがお受けになります。

福島県で奉製されるこの大國だるまは、東日本大震災の折、国土の復興を願い、特別に復刻したものです。



ご自宅やお店などにお祀りください ▲

神々とお祭り

私たちの祖先は、神祭りかみまつりのなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り返される行なわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、神々に対する祖先のこころを

今に伝えている大切なかたちです。



社頭動力静

初甲子祭

だいこく様のお近くで頂く
特別なご加護

四月二日(月)に約一〇〇名の皆さまにご参列いただき、初甲子祭を斎行いたしました。初甲子祭は、寒明け最初の甲子の日にあります。甲子の日は、「ご祭神大己貴命(おなむちのみこと)」が「国作り」を始めた日と伝わり、縁起が良い日とされています。当日は、普段は立ち入ることができないご本殿の廻りを歩き、本殿階下に特別に設えた、だいこく様の宝器「打出の小槌」を手に取り、日々の感謝と祈りを捧げていました。

お参りを終えた皆さまは一様に穏やかな表情をされておりました。



初甲子祭

献茶祭

端午祭の斎行

子どもたちは国のたからです

五月五日(土)午前十一時、端午祭を斎行いたしました。当社で命名奉告をされたお子様とご家族が参列されました。ご神前にてお子様の健やかな成長を感謝申し上げます。今後のさらなるご加護をお祈りいたしました。

祭典後は、お神札と柏餅そして、ご神域で育まれた菖蒲とよもぎの葉を授与いたしました。

端午の節句は「菖蒲の節句」とも呼ばれ、江戸時代に民衆に広がったとされています。菖蒲は尚武にも通じることから、男子の健やかな成長を祝うものとなり、今日では子供たちの健やかな成長を祈るお祭りとなりました。

当日は、元気な子供たちの声が響く賑やかなお祭りとなり、大神様もさぞお喜びのことと拝察いたします。

本宮山青葉祭の斎行

青葉薫る清々しい季節の本宮山

五月六日(日)十一時、爽やかで薫り高い黒文字(クロモジ)の木で飾った、本宮山奥磐戸神社の大前で斎行いたしました。当日は、責任役員の皆さまを始め氏子崇敬者約一〇〇名のご参列を賜りました。

祭典後には、特別に奉製したお神札をおわかちし、本宮山山頂から見渡す美しい遠州灘を望みながら古式神酒と初鰹の刺身をいただき、大神様の豊かな恵みに感謝をいたしました。

毎月、六日の九時三十分頃から月次祭(国と地域の平安と、氏子崇敬者の安泰を祈るお祭り)で、この日にお参りすると縁起が良いとされています。

どなたでもご参列ができますので、皆さまお誘い合わせの上、ご登拝下さい。

本宮山奥磐戸神社 アクセス

検索

献茶祭の斎行

香り立つ季節の恵みを大神様に供え
日々の感謝を伝える

四月十二日(木)に献茶祭を斎行いたしました。献茶祭では、薫り高い銘茶の産地森町で茶業を営む方々により結成された『小國神社献茶会』が摘みたての新茶をご神前にお供えし、国の平安、国民の繁栄、そして茶業の振興を祈ります。

本年は煎茶道黄檗弘風流中山弘薫様、紋谷弘光様よりお点前のご奉仕をいただき、森町茶商組合長島謙三様、森町長太田康雄様を始め、ご関係の皆さまにご参列賜りました。献上されたお茶と同品質のお茶「福德神煎茶」が小國こまち横丁にてお買い求めできます。

お土産として大変人気の品となっています。

静岡DCプレキャンペーン
「あっぱれ静岡元氣旅」始まる!!!

全国の皆様へ大神様のご加護を

デステイネーションキャンペーン(DC)とは、JRGグループ六社と地方自治体・観光団体等が協力して実施する国内最大級の大型観光キャンペーンです。

本県では、約十九年ぶりの開催となり、本年はそのプレキャンペーン期間に当たります。

当社では、全国の皆様が大神様のご加護をお受けになり、日本茶インストラクターが丁寧に淹れた銘茶「神饌茶」を小國神社御庭焼き「遠州みもろ焼き」の器で味わう、こころ安らぐおもてなしの「森町遠江国一宮様献上の茶葉『神饌茶』を味わう小國神社の体験ツアー」を企画いたしました。

職員一同、多くの皆様のご参拝を心よりお待ちしております。

静岡DCキャンペーン

検索



一宮花しょうぶ園開園

神々の恵みが
凜とした咲き姿に宿る

今年も初夏の風物詩、一宮花しょうぶ園を開園いたしました。



ご来園の皆さまは、約八万本の花が咲き競う園内をゆったりと楽しみながら、自然の息吹と尊さを感じられているようでした。職員一同、来年のご来園を心よりお待ちしております。

宮代神饌田御田植祭

昔の手振りをそのままに

五月二十七日(日)宮代神饌田において、田植え初めの祭り御田植祭を執り行いました。

我が国において『お米』は、神さまからの授かり物として大切に受け継がれてきました。そして、その生育を願い幾重にも祭りが執り行われ、日本文化の礎を築いてきました。

当社の御田植祭も古くから行われ、現存する最も古い記録書「延宝の記録」にてその様子が記された由緒ある神事です。平成十一年に現存資料や伝承をもとに古儀を復興し現在にいたります。

今年も旭が丘中学校の生徒らが五月女、五月男としてご奉仕頂きました。

また、氏子青年会OB会の玉垂会による代掻き牛が登場すると多くの参列者から笑みが溢れていました。

体験学習

日本文化の宝庫、それは神社です

四月二十六日(木)森町立森中学校一年生による体験学習が行われました。

職員が基本的なお参りの作法を始め、当社のご由緒などを当地の歴史を交えながらお話をいたしました。

日本文化の宝庫である神社を知り、その歴史や伝承を学ぶことは、我が国の精神文化を理解することに繋がります。

質疑応答では、神社に対する素朴な質問から、深い内容のもので、様々な質問がありました。熱心に質問をする生徒の皆さんが大変印象的でした。

夏詣のススメ

小國の杜で過ごす
癒やしのひととき

宮川沿いの青葉もみじを眺めながらスギとヒノキの古木が立ち並ぶ散策路での森林浴は格別な癒やしのひとときとなります。

「森林浴」は昭和五十七年に日本にお



いて提唱された健康法です。現在では、「shirin-yoku」としてアメリカを中心として各国にも浸透してしつつあります。

近年では、科学的根拠が数多く示され、ストレスレベルの低下、ワーキングメモリーの改善や、生きていることを実感できる、などの多くの効果が期待できます。

これからの 行事

12月



作 カルヨ・ポル／邦題 “太陽の船”

平成30年11月15日(木)から
平成31年 2月17日(日)まで

エストニアの心

～版画家カルヨ・ポルの世界～展開催
場所：研修室

独立100年を迎えた北欧のエストニア共和国はIT先進国であると同時にその国民性は自然に対して、万物の神々を意識する「神道」の世界観に通じるものがあります。

カルヨ・ポル氏は、エストニアを代表する版画家です。氏の感性とエストニアの人々が大切にしてきた民族性が融合した作品が見る人を神秘の世界へと誘うことでしょう。



宮川の紅葉に差し込む朝日



師走大祓式



12月31日(月)午後3時より、師走大祓式を斎行いたします。下半期の罪穢れをお祓いし、清々しく新たな年を迎えることができます。どなたでもご参列ができますので、ご家族皆様でご参列下さい。



疫神齋

11月19日(月)午後2時より、疫神齋を斎行いたします。この祭典は、当社に古くより伝わる特殊神事の一つです。当社の古記録『延宝の記録』にも記載があり、疫病退散の祀りです。

11月

霜月

1日	月次祭	(午前 9時)
3日	明治祭	(午前 9時)
3日・4日	大骨董蚤の市	(日の出～午後3時)
6日	本宮山月次祭	(午前10時)
7日	山神社例祭	(午前10時)
15日	七五三祝祭	(午前 9時)
18日	月次祭・稲祭	(午前 9時)
19日	疫神齋	(午後 2時)
21日	地鎮祭	(午前 9時)
23日	新嘗祭	(午前10時)
	奉納農産物品評会	(午前10時)
25日	もみじまつり	(午前10時)
28日	甲子祭	(午前 9時)

12月

師走

1日	月次祭	(午前 9時)
1日・2日	大骨董蚤の市	(日の出～午後3時)
6日	本宮山月次祭	(午前10時)
8日	鎮火祭	(午後 3時)予定
18日	月次祭	(午前 9時)
18日	滝宮例祭	(午前10時)
18日	初穂献納祭	(午前11時30分)
23日	天長祭	(午前 9時)
25日	煤佛祭	(午後 1時)
31日	大祓式・除夜祭	(午後 3時)

小國神社の 祭典・

8月～



平成30年11月1日(木)より8日(木)まで

日本野鳥の会遠江

秋の野鳥写真展開催!!!

場所：研修室（入場無料）

遠州地方で観察ができる野鳥をご紹介します。
普段では、なかなか見ることができない野鳥の姿や生態系を写し取った貴重な写真が多数展示されます。

本展にお越し頂き、自然に配慮した社会や暮らし方を考える一端になれば幸いです。

8月

はづき
葉月

- | | | |
|-------|--------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 4日・5日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前 9時) |

9月

ながつき
長月

- | | | |
|-------|----------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 1日・2日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 23日 | 秋季皇霊祭遙拝式 | (午前 9時) |
| 25日 | 御柱祭 | (午前 9時) |
| 29日 | 甲子祭 | (午前 9時) |

10月

かなづき
神無月

- | | | |
|-------|--------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 6日・7日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 7日 | 白鬚神社例祭 | (午後 3時) |
| 17日 | 神嘗奉祝祭 | |
| | 神嘗祭遙拝式 | (午前 9時) |
| 18日 | 月次祭 | |
| | 福神像頒布式 | (午前10時) |



秋季皇霊祭遙拝式

9月23日(日)、宮中では歴代の天皇・皇后・皇親の霊を祀る祖霊祭『秋季皇霊祭』が厳かに行なわれます。当社では、同日に皇居内の皇霊殿の方向に向けて拝礼し、皇室の弥栄と国の安寧を祈ります。



新嘗祭

11月23日(金)10時より、大神様へ1年の収穫と諸産業発展の感謝を申し上げる新嘗祭を斎行し、奉納農産物の即売会や篤志奉納者への感謝状の贈呈式も執り行います。年間の祭典の中でも最も重要な祭祀の一つです。



新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える
「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。

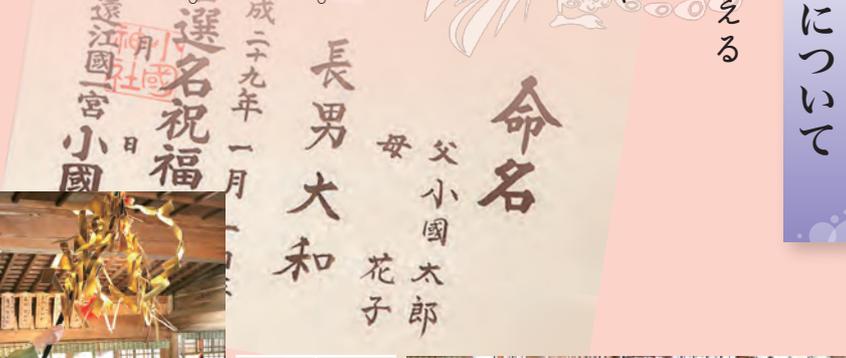
また、ご家族で考えられたお名前候補の中からご相談の上、選名いたします。お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

初穂料 一〇、〇〇〇円也

命名

平成三十年三月一日(木)
平成三十年五月三十一日(木)

大山 桜助 磐田市	齋藤 悠人 菊川市	杉枝 恵吾 掛川市
富田 悠陽 磐田市	井口 ころ 袋井市	下原 諒真 浜松市
小野田かほ 森町	工藤 羽琥 袋井市	八木 陸 袋井市
大塚 才也 藤枝市	山本 瑠輝 袋井市	品川 藍那 菊川市
山下 世菜 浜松市	鈴木 清正 浜松市	高橋 洗貴 掛川市
森田 涼生 森町	早坂 咲良 菊川市	近藤 優埜 袋井市
滝井 陽葵 吉田町	吉松 樹希 藤枝市	山本 大志 掛川市



当社で命名奉告をされた皆様
お子様の健やかな成長をお祈りします

お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索

神社を知れば日本がわかる
“まつりの国、日本”



イラスト 小國神社ものがたり
作 たたら なおき

●海の神さま●
亀や魚は海神の使者！？！？

海を司る神さまを海神、わたつみの神、安波様といい、私たちに海の恵みをもたらし、海難から人々を守ってくれる神さまです。

また、亀や魚は海神の使者であるとも考えられ、それらを助けたため、海の底の宮殿へ行くことができたという説話が各地に伝わっています。昔話で有名な

「浦島太郎」はその代表的な例といえるでしょう。現在でも漁業関係者に広く信仰されている船霊様(ふなだまさま)も舟を守護する海の神さまとされ、操舵室内に神だなを設けて男女一対の紙人形をご神体としておまつりするなどの風習も全国津々浦々に伝わります。



最優秀賞 藤田正男氏「新緑を飛ぶ(サンコウチョウ)」
羽を広げて飛ぶサンコウチョウの貴重な1枚

“小國神社で見つけた日本の美しさ”を表現した“こころ安らぐ”
素敵な作品を心よりお待ちしております

新たな小國神社の一面を切り取る

本年も好評をいただいております「古代の森小國神社写真コンテスト」を開催いたします。
“小國神社で見つけた日本の美しさ、を表現した写真を募集しています。作品一枚からでも、
年齢やお住まいを問わず誰でもご応募いただけるコンテストとなっております。

作品のご応募について

■募集部門

- 第1部門 境内の草花などの自然
- 第2部門 祭事・催物
- 第3部門 野鳥

■応募期間

平成30年6月1日～7月10日必着

■ご応募のきまり

- カラープリント 四切/ワイド四切(フチなし)
- 撮影期間 平成29年7月上旬～平成30年6月下旬
- 未発表作品に限ります
- ※詳細は当社WEBサイト、当社・県内写真各店配布の応募用紙をごらんください。

最優秀賞から
入選まで
各賞をご用意

受賞作として20作品を選び、表彰と懸賞のお渡しをしています

- 最優秀賞 1名 賞金5万円 賞状 森町産お茶
- 優秀賞 3名 賞金2万円 賞状 森町産お茶
- 特別賞(宮司賞)1名 賞金3万円 賞状 神饌茶
- 入選 15名 賞状 副賞(一品)

心ゆくまで作品を堪能できる写真展へお越下さい。
ご応募いただいた作品の中から、受賞作品・展示作品、約五十点を選び、展示いたします。

写真展の開催予定

小國神社休憩所2階ギャラリー
平成30年9月頃開催予定

写真展に寄せられた感想をご紹介します

- ゆっくりと時間が流れ、自然にもどれました。(千葉県)
- 小國神社の良さが良くわかるすばらしい写真ばかりでした。(神奈川県)
- どの写真もすばらしく感動しました。(北海道)
- 心がホットする時をありがとうございました。(山梨県)
- 小國神社の四季を感じられました。(三重県)
- 素敵な写真ばかりでした。(焼津市)
- 四季折々の風景、神事、子供たちの表情など楽しませていただきました。(浜松市)



当社は四季折々の自然に恵まれた豊かな杜に生まれ、ご神域には多くの草花が息づいています。

ご紹介するご神域での草花の写真の数々は崇敬者の山崎克己様の奉納写真をもとに掲載いたします。

ナンテン（南天） メギ科ナンテン属

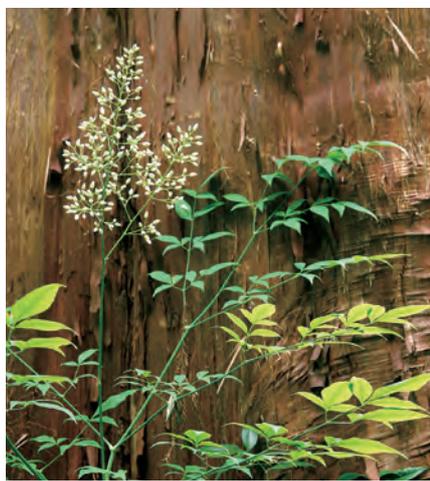
花期 六月から七月

生育地 山野の林内

分布 本州から九州

赤く艶のある実が真っ先に思い出されますが、初夏には白くつつましかかな花を咲かせます。

その名前から「難転」、難を転じる縁起の良い植物として珍重されています。正月飾りとして用いられるほか、彩りや防腐も兼ねて赤飯や弁当にも入れられます。



ナンテン

心をうるわしく感性を高める

第九期「遠州とこわか塾」入塾のスズメ

「常若」とはいつまでも若々しくいることです。

私たちは「若々しさを保つ」とは、単に体力的なことだけではなく、むしろ心や頭の若々しさこそが重要だと考えます。その為には、よい話を聞き美しいものを見て、感動や感謝の気持ちを忘れず、常に感性を高めることが大切です。

当塾は、我国の歴史や伝統文化にはじまり、時局的課題について学び、日本人としての生き方の参考となるような礎材を提供しています。塾生の皆さんが自己研鑽の場としてご利用戴くことを願っております。

【入塾要項】

- 一、定員 一〇〇名（申し込み先着順）
 - 一、資格 小國神社が好きな方（十八歳以上）
 - 一、塾費 年間 一、〇〇〇円（一年を一学期とします。）
 - 一、開催日 年数回（九月一日から翌年八月三十一日迄の間）
 - 一、ご案内 開塾のご案内はその都度神社から発送致します。
 - 一、申込方法 〒番号・住所・氏名・電話番号・年令・性別を記入して、葉書、FAX等で申し込みください。
- お申込先 FAX（〇五三八）八九一七三六七
「遠州とこわか塾事務局」
平成三十年八月二十五日（土）

一、申込期限



はままつフラワーパーク理事長
塚本こなみ先生



衆議院議員・前外務副大臣
城内実先生



鎌倉長谷寺法務顧問・エッセイスト
高田都耶子先生

編集後記

玉垂五十三号をお届けいたします。

本年の一宮花しようぶ園は、五月下旬から六月上旬に見頃を迎えました。本年は、「白い虹」と言われる江戸系の早生品種の生育に成功し、凛とした咲き姿が来園の皆さまの目を楽しませていました。

さて、樹齢八〇〇余年縁結びのご神木「ひょうの木」につがいの蛇が住み着いています。地元の皆さまのちょっとした話題となっています。蛇は、古来より信仰の対象となり、幸せをもたらす動物として大切にされてきました。お参りの際に出会えるかもしれません。見つけた時にはそっと遠くから観察して下さい。

